

シニアの生きがいと社会参加に向けて

# シニアネットフォーラム 2010 in 東北

— シニア情報生活アドバイザー活動研究会 —

## 【報告書】

平成22年10月

**主催**

財団法人ニューメディア開発協会

**共催**

NPO法人 仙台シニアネットクラブ（企画・運営）

東北情報通信懇談会

## (I) はじめに

高齢化白書によりますと、我が国の65歳以上の高齢者割合は現在の4人に一人が25年後には3人に一人になると予想されています。このように増加し続ける高齢者には、積極的かつ多様な社会参加が望まれるところです。そのような社会参加は、年齢の垣根を超えた交流、共同参画・役割分担を進めることとなり、高齢者にとって生き活きとした健康的で生きがいの持てる日常と明るく心豊かな社会が実現されます。このような意味で、経済産業省が提唱しているメロウ・ソサエティ構想で掲げる「高齢者自立型・参加型情報化社会」は極めて重要な社会参加の一環であり、長期的かつ全国的に取り組むべき課題です。

近年の情報化の波は目覚ましいものがありますが、高齢者はややもするとその波に飲み込まれるか置き去りにされ、情報弱者のまま放置されかねません。しかし情報化の一翼を担うパソコンは、広く一般に普及し親しみやすいがゆえに、高齢者にとっても有効な社会参加の手段となり得ます。つまり、パソコンを用いることで情報の共有や発信が「高齢者でもできる」ということこそ、社会参加に関わっていく上で最も重要視すべきことです。なぜなら、体力、知力、等々の衰えが避けられない高齢者には、これらの能力の、少なくとも一部を分担してくれるパソコンこそは強力な味方となりうるからです。

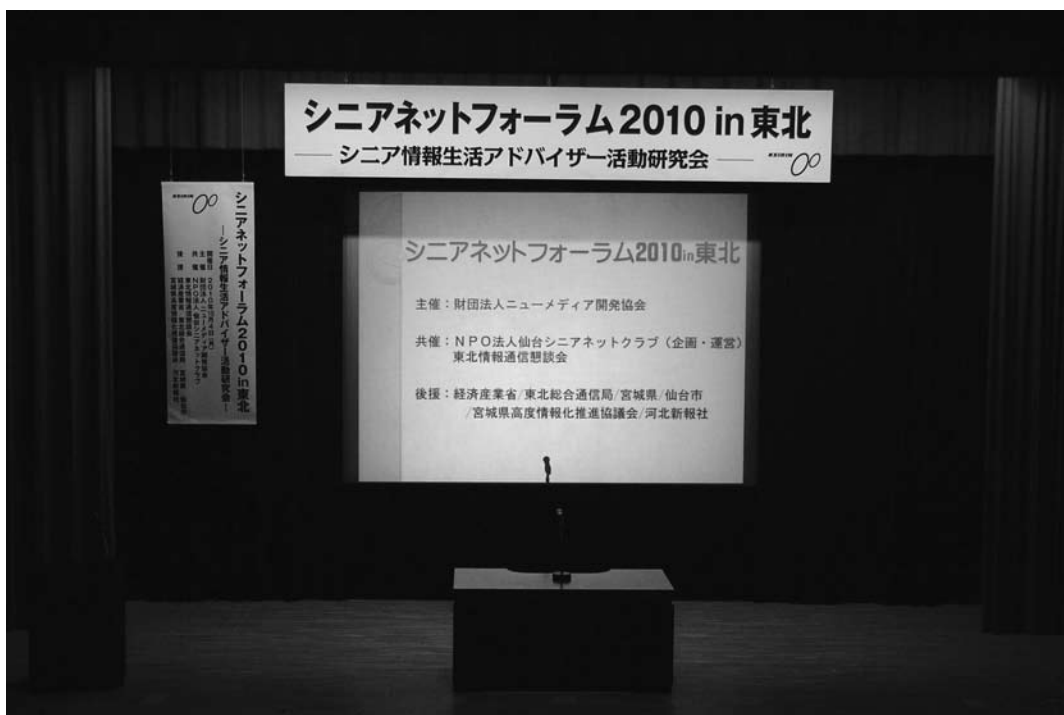
高齢者のためのパソコン操作の指導者養成を目的として財団法人ニューメディア開発協会が進める「シニア情報生活アドバイザー制度」は、各方面から大きな期待と関心が寄せられています。認定されたアドバイザー数は全国でおよそ3000名に達し、今後も急速に増加し続けることが予想されますが、東北地域では僅か100名を超すに過ぎません。このため、同地域ではアドバイザー制度の意義と役割に対する認識の共有、さらにはその普及のための活動が不十分で、これが高齢者のパソコンへの取り組み支援の障害となっています。これを解消するためには、同地域でこの課題に取り組むシニア団体が連携し、現状認識、情報、ノウハウ等々を共有しつつ、活動の活性化・拡大のための協働作業に取り組むことが急務です。

そこで、東北地域におけるシニアネットが一堂に会し、相互の連携と交流を深め、活動の一層の活性化・協働によりシニア情報生活アドバイザーの普及・啓発、ひいては高齢者の情報化活動への参画促進を目指し、また、シニア情報生活アドバイザー制度と同制度を活用したシニアネット活動について広く一般市民の理解を求めることを目的として、仙台市シルバーセンターにおいて「シニアネットフォーラム2010 in 東北」を開催いたしました。

同フォーラムでは、予想参加人員を上回る数多くの方々のご参加をいただき、東北大学医学部教授辻一郎先生によるシニアの生きがいとITとのかかわりについての基調講演、各地の代表の生き活きとした活動事例報告、客席を巻き込んだ活発なパネル討論など、参加者には大変有意義なフォーラムとなりました。

これらの成果は、東北地方の今後のシニアの生き方への力強いメッセージとなったものと信じております。ここに、これらの成果を網羅した報告書を作成いたしましたので、お送りいたします。皆様の今後のご活躍の参考にしていただくとともに、今後、シニア情報生活アドバイザー養成を一層推し進めていただく一助となれば幸いです。

財団法人 ニューメディア開発協会 理事長 岡部武尚  
東北情報通信懇談会 会長 丸森仲吾  
NPO法人・仙台シニアネットクラブ 理事長 井上文雄



# 「シニアネットフォーラム2010 in 東北」 報告書

## 目次

(Ⅰ) はじめに	1
(Ⅱ) フォーラムの概要	4
1. 実施概要	4
2. プログラム構成のポイント	5
3. 実施結果	7
(Ⅲ) プログラムの詳細	8
1. 主催者挨拶	8
2. 来賓挨拶	10
3. 基調講演	11
4. セッション1：事例報告（前半）	13
5. セッション2：事例報告（後半）	23
6. パネル討論	29
7. 閉会の挨拶	40
(Ⅳ) 付属資料（アンケート集計結果）	42

## (Ⅱ) フォーラムの概要

### 1. 実施概要

- (1) 日時：平成22年10月4日（月） 10：30～16：30
- (2) 会場：仙台市シルバーセンター 1F 交流ホール  
仙台市青葉区花京院1-3-2
- (3) 主催：財団法人 ニューメディア開発協会
- (4) 共催：東北情報通信懇談会  
NPO法人 仙台シニアネットクラブ（企画・運営）
- (5) 後援：経済産業省  
総務省 東北総合通信局  
宮城県  
仙台市  
宮城県高度情報化推進協議会  
河北新報社
- (6) 参加費：無料
- (7) 参加対象：
  - ・シニアネットへの参加や新規設立等、シニアネットに関心のある方
  - ・シニアネットのメンバーの方
  - ・シニア情報アドバイザーの方
  - ・自治体で高齢者問題やコミュニティビジネス、NPO 活動推進をご担当の方
  - ・企業で社会貢献、シニアマーケティング、バリアフリーなど、シニア向け商品・サービスの企画・開発等に携わっておられる方
  - ・コミュニティビジネスやNPO 活動に取り組んでおられる方
  - ・その他、シニアネット活動に関連する方々

## 2. プログラム構成のポイント

開催の趣旨である、東北地域でのシニアネット相互の連携・交流の強化、活動の一層の活性化・協働によるシニア情報生活アドバイザーの普及・啓発、ひいては高齢者の情報化活動への参画促進を目指し、以下のようにプログラム内容をシニアの生きがいについての基調講演、シニアネットの活動事例、そしてより広範囲のNPO団体の活動事例、さらには、シニア情報生活アドバイザーを養成し、かつ資格者を擁する団体によるパネル討論による構成とした。

### (1) 基調講演

テーマ：「社会参加と生きがいづくり — IT社会への期待」

講師：辻 一郎 氏（東北大学大学院 医学系研究科 教授）

百歳老人の生活実態を例に、長生きする人の性格・人生観・感情、認知症になりやすい性格、こころの健康と関連する要因、人とのつながりの重要性、さらには関連するIT社会への期待について話していただいた。

### (2) セッション1：事例報告（前半）

東北各地でシニア対象のパソコン指導を進めている以下の団体に沿革および活動の紹介、さらには今後の展望を報告していただいた。

- ・ NPO法人 豊齡研ITサロン会津（福島県・会津若松市）
- ・ NPO法人 いわてシニアネット（岩手県・盛岡市）
- ・ NPO法人 パソコン・ネット・みやぎ（宮城県登米市）

### (3) セッション2：事例報告（後半）

東北各地でITに限らず幅広く活動している以下の団体に活動状況の紹介、さらには今後の展望を報告していただいた。

- ・ NPO法人 あきたパートナーシップ（秋田県・秋田市）
- ・ NPO法人シニアのための市民ネットワーク仙台（宮城県仙台市）

### (4) パネル討論

東北各地でシニア対象のパソコン指導を目的として活動し、ニューメディア開発協会認定の「シニア情報生活アドバイザー」を擁する以下の団体に、アドバイザー制度の現状、問題点、要望、さらには今後の展望について討議を進めていただいた。

- ・ NPO法人 IT支援ネットあおもり（青森県・青森市）
- ・ NPO法人 アспコンピュートースクール（山形県・酒田市）
- ・ NPO法人 イーエルダー・東北支部（宮城県・名取市）
- ・ NPO法人 仙台シニアネットクラブ（宮城県・仙台市）

討論のコーディネーターは、NPO法人自立化支援ネットワーク（東京都）理事長の生部圭助氏につとめていただいた。

## プログラム

10:30 - 10:50	オープニングセッション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主催者挨拶 財団法人ニューメディア開発協会</li> <li>・来賓挨拶（予定） 東北経済産業局長 豊国 浩治 氏 宮城県知事 村井 嘉浩 氏 仙台市長 奥山 恵美子 氏</li> </ul>
10:50 - 12:00	基調講演 「社会参加と生きがいづくり — IT社会への期待」	辻 一郎 氏 (東北大学大学院 医学系研究科 教授)
12:00 - 12:50	昼食・休憩	
12:50 - 13:50	セッション1：事例報告 「各地におけるシニアネットの 活動と今後に向けて」(前半)	<ul style="list-style-type: none"> <li>①NPO 法人 豊齢研 ITサロン会津 代表理事 長谷川 友仁 氏</li> <li>②NPO 法人 いわてシニアネット 理事長 千葉 文夫 氏</li> <li>③NPO 法人 パソコン・ネット・みやぎ 理事長 渡部 俊幸 氏</li> </ul>
13:50 - 14:00	休憩	
14:00 - 14:40	セッション2：事例報告 「各地におけるシニアネットの 活動と今後に向けて」(後半)	<ul style="list-style-type: none"> <li>④NPO 法人 あきたパートナーシップ 事業推進課課長代理 千田 節子 氏</li> <li>⑤NPO 法人 シニアのための市民ネットワーク仙台 副理事長 緑川 斐雄 氏 理事 及川 寿恵子 氏</li> </ul>
14:40 - 14:50	休憩	
14:50 - 16:20	セッション3：パネル討論 「シニア情報生活 アドバイザーの活動」	<p>コーディネーター：NPO 法人 自立化支援ネットワーク 理事長 生部 圭助 氏</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①NPO 法人 IT支援ネットあおもり 理事長 村口 理 氏</li> <li>②株式会社キャリア・アシスト 代表取締役 平野 慎 氏</li> <li>③NPO 法人 イーエルダー・東北支部 支部長 武藤 正勝 氏</li> <li>④NPO 法人 仙台シニアネットクラブ 理事長 井上 文雄 氏</li> </ul>
16:20 - 16:30	クロージングセッション	<p>閉会挨拶 NPO 法人 仙台シニアネットクラブ 事務局長 内海 哲郎 氏</p>

### 3. 実施結果

今回の参加者は138名と予想を上回る結果となり、登壇者に限らず東北各地のシニアネットやNPO団体からも参加があり、関心の高さがうかがわれた。

・東北大学医学部の辻一郎教授の基調講演では百歳老人の生活実態を例に、元気に長生きするにはどうすればよいか、長生きする人の性格・人生観・感情とは、認知症になりやすい性格はあるか、などに触れながら語っていただき、さらに、こころの健康と関連する要因として人とのつながりが極めて大切であり、健康社会へともつながっている、それゆえにIT社会への期待も大きいことをわかりやすく話していただいた。講演内容は大変わかりやすく、またシニアに限らず世代を超えて、かつシニアネット活動に限定されない幅広い層にとって共感が期待される内容で、参加者からの評判も高かった。

・各地のシニアネット団体およびNPO団体からの活動事例報告は、それぞれの個性と地域的特徴を活かし、かつ活発な活動の様子が理解でき、今後の活動の参考にすべき重要な事例報告となった。

・シニア情報生活アドバイザーを擁する団体によるパネル討論では、冒頭、コーディネーターの生部圭助氏より、パネル討論の位置づけの説明、パネラー間でシニア情報生活アドバイザーについての認識を共有するためのパワーポイントによる説明があった。次に、パネラー個別の所属団体の沿革、活動状況説明の後、アドバイザー講座実施団体としての意義、動機、経験、活動実績等についての討論を経て、各団体の悩み、要望について意見交換した。また、パネル討論中は、客席からも、活発な意見、質問が出され、会場全体が一体的に運営が進められた。

以上のように、今回の「シニアネットフォーラム2010 in 東北」は極めて有効、かつ有意義に実施された。また、参加者からは、当日の質疑時、パネル討論時、さらには懇談時に、そして後日メールでも様々なご意見を頂戴した。これらを含めた成果は、今後のシニアネット活動やNPO活動に多大な寄与することが期待され、ひいてはシニア情報生活アドバイザー制度のさらなる発展に資することとなる。





## (Ⅱ) プログラムの詳細

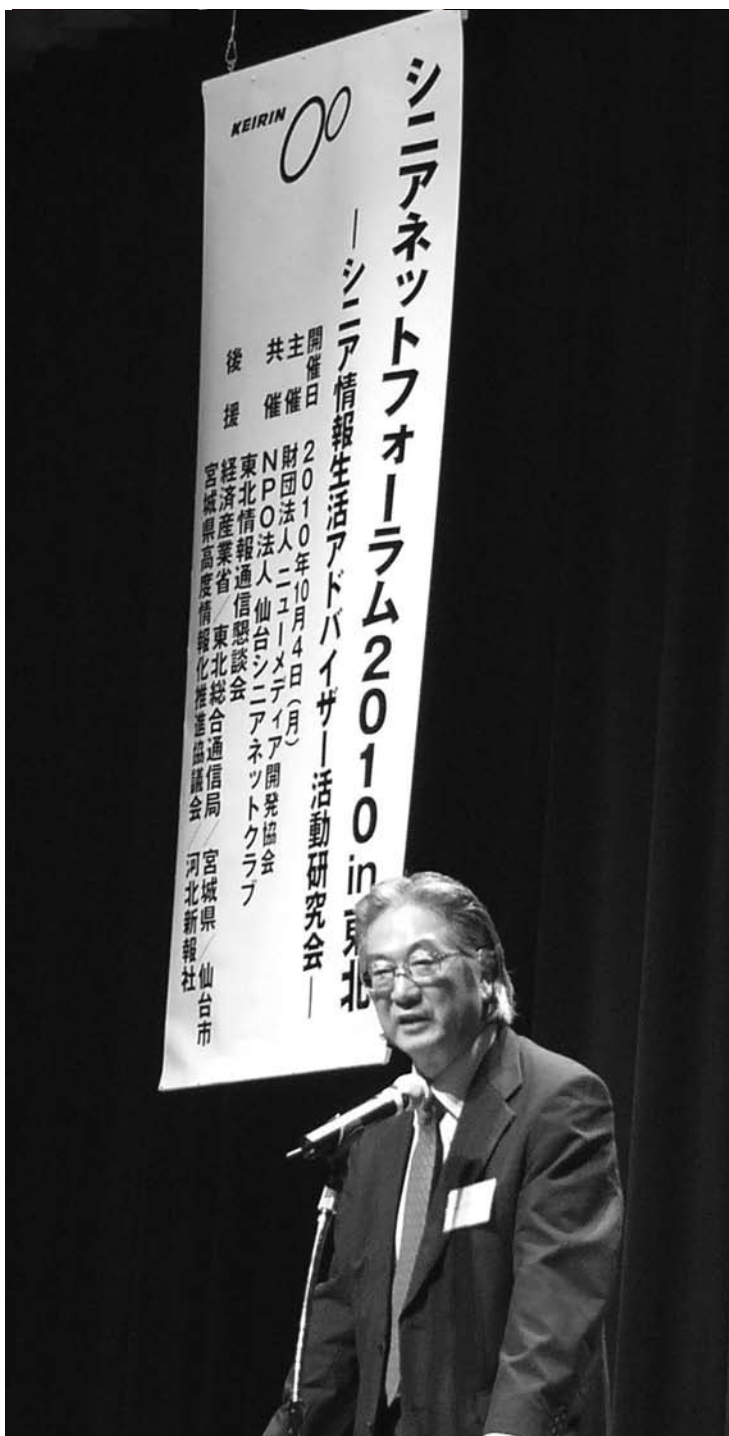
### 1. 主催者挨拶

財団法人 ニューメディア開発協会  
理事長 岡部 武尚

「シニアネットフォーラム2010 in 東北」の開催に当たり、主催者、共催者を代表して一言ご挨拶申し上げます。

本日、(財) JKAのご支援をいただき、3年ぶりに、ここ仙台市において、「シニアネットフォーラム」を開催致しましたところ、この様に大勢の方々にご参加いただき、まことにありがとうございます。また、今回の開催に当たり、経済産業省様、総務省・東北総合通信局様、宮城県様、仙台市様、宮城県高度情報化推進協議会様、河北新報社様からのご後援を頂くと共に、ご多忙の中、多くのご来賓の方々のご臨席を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、今まさに日本は長引くデフレ経済から脱却できずに未曾有の不況下にあって、国民全体も大きな閉塞感の中にあります。また、多くの地域においても、この影響を受けて社会や経済環境が大きく変わり、苦境にあえいでいるといえましょう。一方、世界の69億人の人口が40年後には90億人へ増加するといわれる中で、日本だけが急速な人口減少と「高齢化」が進んでおります。今や、65歳以上のいわゆる高齢者の人口は3年前よりも100万人増え、2944万人と全人口の23.1%



に達し、4.3人に一人が65歳以上となりました。25年後の2047年には33.7%、3人に一人を高齢者が占めるといふ、世界が経験したことがない「超高齢社会」を迎えるといわれております。他方、「少子化」の進行と共に、15歳から64歳までのいわゆる生産年齢人口が今後50年で46%減少するといわれており、今後の経済成長、日本の発展を支えるためにも、シニアがまだまだ第1線で活躍し、社会を牽引していくことが必要ではなからうかと存じます。

地域におきましても地域再生の有力な担い手として、シニアの活躍がますます求められます。また、シニア自身においても、安全、安心で快適な社会生活を送っていくためにも、自分自身の意識や、自らの生き方を含めて、自ら変革し、新しい文化や潮流作りに取り組み、地域での新しいライフスタイルを実現することが必要ではないかと思ひます。

インターネットや携帯電話の普及などの情報化の進展がめざましく、日常生活がITの活用によってさらに便利になる中で、シニアが、IT化する社会から取り残されないように対応していくことも必要になっております。

このような社会の大きな流れに対応するべく、(財)ニューメディア開発協会では、シニアが、情報技術を活用し、円熟した、生き甲斐のある、豊かな老後を送れ、社会に貢献できるような「高齢者自立・参加型情報化社会」を創り上げるという目標を達成するために、「シニアネット」構想を平成12年以来、進めており、既に10年を超えるまでになりました。

「シニアネットの数」は現在、全国で、122団体。この一年間に15団体増加しました。シニアネットで養成されている「シニア情報生活アドバイザー」は、累計資格取得者が4020名に達し、現在、およそ3000名の方々が全国で活躍しております。

東北6県におけるシニアネットは8団体、おおむね各県に1団体以上のシニアネットがあります。「シニア情報生活アドバイザー」は昨年よりも減少し、合計124名、全国の約4.1%にあたります。ご当地、宮城県では、現在、約72名のシニア情報生活アドバイザーが、県内各地で活躍しております。しかし、地域的に温度差が大きく、各県、各市町村でさらなるアドバイザーの養成と普及をお願いしたいと思ひております。

「シニアネット」の役割は、シニアが自己実現の場を求め、得意のITを駆使して、様々な社会参加活動を活発に展開し、「シニアの居場所や出番のある社会を作る」ことではないか、シニアの豊かなエイジング（加齢）を支える仕組み作りではないかと思ひます。

シニアが再び地域デビューを果たし、地域主権の時代に相応しい活動に参加し、自治体や地域の企業などとの協働コラボレーションの推進に欠かすことのできない強力なパートナーになり、地域コミュニティの活性化、地域の新しいサービス・需要・産業の創成、地域課題の解決に貢献することが重要です。

シニアネットはまさにこれからの「新しい公共」の担い手ではないかと存じ

ます。今や、「高齢者がメジャーな時代」になりつつあります。シニアの方々は、これまで培ってきた「知識」、「技術」、「経験」を十分に活用して貢献すると共に、豊かに、生き甲斐ある人生作りにチャレンジして頂く、まさに「シニアの再チャレンジ」の時代です。

本日の基調講演では、東北大学大学院・医学系研究科教授の辻 一郎先生に、「社会参加と生き甲斐作り — IT社会への期待」の演題でご講演いただくことになっております。先生には、3年前のフォーラムにおきましてもご講演をいただき、「ボランティア活動が寿命を大幅に伸ばす」という大変有意義なお話を頂いたことを今でも思い出されます。さらに、本日のフォーラムでは、「各地におけるシニアネットの活動と今後に向けて」、「シニア情報生活アドバイザーの活動」に関する事例研究とパネル討論を行います。

今日、多くの方々との熱い議論と相互交流を深められますよう御願ひ申し上げ、また、この成果を日頃の新しい生活や活動の御参考にされ、厳しさの増す高齢化時代を豊かに生き抜いていただきたいと存じます。

最後になりましたが、各セッションに御出席、お話しをいただく講師の方々並びに遠路から御参加いただいた方々、本日の開催に当たりご協力いただきました、東北情報通信懇談会様、NPO法人「仙台シニアネットクラブ」様始め、多くの関係者の皆様に、心より感謝申し上げます、開会の挨拶と致します。

## 2. 来賓挨拶

以下の方々からご挨拶をいただいた（ご登壇順）

- ・東北経済産業局長 豊國 浩治 様  
（代読：寺家 克昌 地域経済部長）
  
- ・宮城県知事 村井 嘉浩 様  
（代読：今野 順 企画部情報政策課長）
  
- ・仙台市長 奥山 恵美子 様  
（代読：高橋 仁 健康福祉局高齢企画課長）

### 3. 基調講演

#### 「社会参加と生きがいづくり — IT社会への期待」

東北大学大学院 医学系研究科  
公衆衛生学分野 教授

辻 一郎



昭和 32 年、北海道函館市に生まれる。昭和 58 年に東北大学医学部を卒業後、在日米海軍病院（横須賀市）インターンを経て、リハビリテーションの臨床に従事した後、平成元年に東北大学医学部公衆衛生学講座助手。米国ジョーンズ・ホプキンス大学留学などを経て、平成 14 年より東北大学大学院医学系研究科公衆衛生学分野・教授。

健康寿命という概念をわが国に紹介し、その延伸に向けた取り組み（運動訓練や認知症予防のプロジェクト）を地域で展開中。介護保険制度の見直しでは、介護予防の制度設計に貢献した。著書に「のぼそう健康寿命」（岩波アクティブ新書）、「介護予防のねらいと戦略」（社会保険研究所）、「病気になりやすい『性格』」（朝日新書）など。

## 社会参加と生きがいづくりー I T 社会への期待ー

東北大学大学院医学系研究科

教授 辻 一郎

### 百歳老人の生活実態：元気に長生きするには？

- ・ 健康・体力づくり事業財団の調査
- ・ 百寿者研究会の調査：糖尿病や動脈硬化が少ない、肥満が少ない
- ・ 同上：百寿者の身体的特徴、百寿者に多い血液型は？

### 長生きする人の性格・人生観・感情とは？

- ・ 百寿者に多い性格：(男性) 開放性、(女性) 開放性+外向性+誠実性
- ・ 日常の生活で大切だと思うものは何ですか？ その答えで、その後の死亡率に2倍の差
- ・ 二十歳の気持ちが寿命を決める：ポジティブな感情表現が多い人ほど、寿命は長い
- ・ 生きがいのある人は、長生きする：では生きがいの源は？
- ・ ボランティアは心身の健康に好影響を及ぼす

### 認知症になりやすい性格はあるか？

- ・ 中年期に無口でがんこ、非社交的
- ・ 活動的な人では、認知症の発生リスクが低下する：社会参加の重要性
- ・ 脳の「予備能」という無限の可能性 — 予備能を増やすには？ —

### こころの健康と関連する要因：人とのつながり

- ・ K6：心理的苦痛（抑うつ・不安）に関するアンケート調査
- ・ 心理的苦痛のある人：地域での活動への参加が少ない、社会的支援が足りない
- ・ 社会参加・社会関係の活発化が、心身の健康に大きな役割

### 人はつながっている、だから健康もつながっている：

#### I T 社会への期待

- ・ 地縁、血縁や職縁もいいけれど・・・、「知縁」のススメ
- ・ 知縁：共通の趣味や関心事によって結びつく、人と人とのつながり
- ・ I T こそが知縁型社会の基盤：時間と空間を超えた結びつきが知縁を豊富にする
- ・ 健康寿命を延ばすうえで、I T はどのような役割を担うことができるのか？

## 4. セッション1：事例報告（前半）

### セッション1 事例報告 「各地におけるシニアネットの活動と今後に向けて」（前半-1）

長谷川 友仁 氏

NPO法人 豊齢研ITサロン会津 代表理事

1980年（42才）頃から趣味でパソコンを始め、1994年（56才）から、パソコンサポート業を開始。2000年春62才を過ぎ、これからの人生をいかに有意義に送るか、それは自分のパソコン経験を高齢者の皆さんに提供、パソコンを脇役にわいわいがやがや楽しい仲間作りができれば、高齢者がいつでも集えるサロンのような場所ができればと、数年前から・・・

#### ◆ 設立のきっかけ

これまでパソコン教室で若い人から年配者までパソコンの使い方を教えてきた。この経験の中で痛感したのは、教室での時間の制約が壁になって60歳以上の年配者はどうしてもパソコンの操作法は遅々として進まず、すぐ忘れてしまう。一方で2、30代の人たちは覚えも早く、脱落していくのは、決まって年配者。当時、福島民報論説委員長渡辺紀士見氏と何回も酒を酌み交わしながら相談、ぜひやろうとなったのがこの会発足のきっかけ。



#### ◆ 発足の経過

2000年4月1日 豊齢社会研究会発足、会員9名 毎週木曜日 パソコンとインターネットにふれあう会を開催。同年10月 会員25名となる。

2001年8月8日 NPO法人 豊齢研ITサロン会津 として 福島県知事より認証を受ける（当時 会員36名、2010年9月現在72名）

#### 活動の状況（経過）

#### ◆ 豊齢という言葉の生い立ちとその意味

会報わいわい21創刊号記事より抜粋 別紙-1

## 「わいわい21」会報創刊に寄せて

渡辺 紀士見

<p>まず、何をさておいても「わいわい21会報」創刊に心から祝福を送りたい。同時に、豊齡研 I Tサロン会津が N P O 法人に認証されたことは二重の喜びである。創刊号を記念してもう一度、「豊齡」の意味を再認識しておきたい。私が福島民報のあるコラムに書いた拙文を再録させていただくことを許してもらいたい。</p>	<p>◇ ◇</p> <p>豊齡とは、ふくよかで、高齡、老齡といった類語よりも老いを優しく包み込む、といった語感が</p>	<p>伝わる。しかし、広辞苑、大辞林、大辞泉、日本語大辞典などの代表的な国語辞典にも豊齡という言葉はない▼実は「豊齡の生みの親は東北学院大学経済学部森健一教授です」と、福島市のホームヘルパー三浦幸子さんが豊齡化、との語句が使われている資料をわざわざ持参してくれました。</p> <p>◇</p> <p>どうして豊齡という言葉に富んだ言葉が生まれたのだろうか。森教授にそのいきさつを聞いた</p>	<p>▼昭和五九（一九八四）年、当時の仙台市長の島野さんが高齡化社会の到来を予見して、仙台市の進むべき道を有識者に依頼して提言を求めた。そして、高齡者問題協議会が発足、その時の会長が森教授だった。「メンバーが集まって話し合います。でも、正直言って、役所の会議室ではアイデアが出ないんです」。</p> <p>◇</p> <p>それに高齡化社会、老齡化社会という言葉は、どうもイメージが暗くてなじまない▼何回目かの会議が終わったのは夜。疲れをいやすために数人のメンバーとお酒を飲んだ。心地よくなったアタマの中から突然、ぽっと浮かんできた言葉が「豊齡」だった。二年後に提言書を出す。その冒頭の見出しは『「豊齡化社会」をめざして』。</p> <p>◇</p> <p>豊齡とは「老いは人生の下り坂ではない。常に上り坂なのです」。森教授の声は明るかった。</p>
---	---	---	---

◆ 会報 わいわい21の発行

2001年8月、NPO法人 豊齡研 ITサロン会津のNPO法人認証を記念して会報を発行。以来 2010年6月 会報第31号の発行まで、下記ホームページに全部掲載ごらん下さい。<http://www.aizu.gr.jp>

◆ ITサロン（自遊樂校）の開催

＜最初は何をしていたの？＞

パソコンを使えないメンバーが多くいました。だけど、仲間に教わったり、また自分で勉強しながら、最初はパソコンの起動、文字の入力の仕方から始まり、インターネットのやり方や、名刺を作ったり、パンフレットを作ったり、データ入力をしたり、簡単そうなことをわいわいがやがや楽しくやってみました。すると、パソコンと積極的に向かい合うことになり、メンバーの勉強熱は上昇スパイラルとなりました。（つまり、ハマってしまった・・・）

◆ デジカメ野外研修 春秋の年2回開催

**特色・自負できる点**

◆ パソコン自遊樂校とは

NPO法人豊齡研 ITサロン会津の「自遊樂校」は、高齢者がIT社会に置いてけぼりにされるのではなく、積極的に使いこなせるようになっていただくためのITサロンです。「パソコンを学ぶ場」と言うよりも、「パソコンやインターネットになじむ場」と「くつろぎの場」をミックスしたもの……。すなわち「サロン」という様な気楽なIT習得の場を目指しています。わいわいがやがや楽しみながら、パソコンとインターネットにふれあう仲間のパソコン自遊樂校。

◆ 豊齡研の厳守事項

豊齡研の厳守事項は、相手が嫌だなあと思うことは、やらない、言わない、陰口しない。守らない方は、退会していただく。

◆ お茶時間の会員交流と健康体操



## 沿革

### ◆ 設立の動機

1980年(42才)頃  
趣味でパソコン

1994年(56才)から  
パソコンサポートの仕事に

自分のパソコン経験を高齢者の皆さんに、  
楽しい仲間作り、高齢者がいつでも  
集えるITサロンを、3・4年前から・・・

還暦を過ぎて  
今年には具体化  
したいと

### ◆ 設立のきっかけ

当時、福島民報新聞の論説委員長だった、  
故渡辺紀士見氏と  
酒を酌み交わしながら相談、ぜひやろうと  
なったのがこの会発足のきっかけ。

## ○ 発足の経過

2000年4月1日

豊研社会研究会発足 当初会員9名(同年10月 会員25名となる)

毎週木曜日 NTT会津支店にて

パソコンとインターネットにふれあう会を開催。



当時の教室風景

2001年8月8日

NPO法人 豊研ITサロン会津として

NPO法人の福島県知事認可を受ける

## 活動の状況(経過)

### ○ 豊齢という言葉の生い立ちとその意味

生みの親

東北学院大学  
森 健一 教授

その経過の  
詳細は別紙

### 活動その1

#### ○ 会報 わいわい21の発行

2001年8月、NPO法人 豊研ITサロン会津のNPO法人認証  
を記念して、会報を発行

以来 2010年6月 会報第31号の発行まで、  
下記ホームページに全部掲載、ごらん下さい

<http://www.aizu.gr.jp>

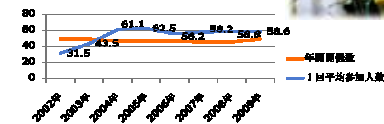
### 活動その2

#### ○ ITサロン(自遊楽校)の開催

##### ITサロン開催状況

(毎週、午前2時間・午後2時間 開催)

年度	年間開催数	1回平均参加人数
2002年	49	31.5
2003年	49	43.5
2004年	47	61.1
2005年	47	62.5
2006年	47	56.2
2007年	46	58.2
2008年	46	58.8
2009年	49	58.6



#### ※これが主たる活動

毎週 金曜日 開催  
午前の部 初心者  
午後の部 経験者



### 活動その3

#### ◆ デジカメ野外研修 春秋の年2回開催



こし春の  
デジカメ野外研修  
の  
記念写真

腕の見せどころ  
と  
綺麗な花を狙って  
パチリの様子



## 特色・自負できる点

### ○ パソコン自遊楽校とは

「自遊楽校」は、高齢者が1人1台で自由に  
利用されるのをなく、積極的に使ってもらえるよ  
うになつていくためのITサロン。

「パソコンやインターネットになじむ場」と「つろぎの場」をミッ  
クスしたもの…。すなわち「サロン」という様な気楽なIT習得  
の場を目指す。



## セッション1 事例報告 「各地におけるシニアネットの活動と今後に向けて」(前半-2)

### ② 千葉 文夫 氏

#### NPO法人 いわてシニアネット 理事長

会社退職後、盛岡地方振興局が開設した平成12年度岩手高齢者大学受講生のとき、任意団体としていわてシニアネットの設立があり、その直後に入会した。主として事務局業務に携わってきたが2年ほど交流部会を担当した。今年5月から理事長に就任。

#### 沿革及び活動状況

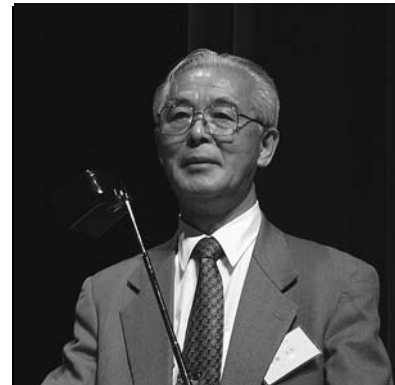
平成12年9月8日に任意団体として設立し、平成15年3月14日に特定非営利活動法人の認証を受け、3月24日登記完了してNPO法人となる。

設立当初は5部会であったがその後組織改正し、現在は3部会で行っており、各部会の主な活動概要は次のとおりである。

IT事業部会はシニア対象のIT講習会開催および講師サポーター派遣、パソコン相談会開催を盛岡市内公民館など数箇所で行っている。特に盛岡市西部公民館でのシニアパソコン講座は平成14年に市教育委員会との共催であったが平成16年からは当会主催となって、毎年継続して実施している。訪問サポートサービスを行っている外、会員向け講習会、講師、サポーターのスキルアップのための学習会を開催している。

交流部会はITサロンを運営し、会員同士が気軽に学び合い、よりどころとなる場作りに努めている。事務局と同室としており、情報通信技術を会得したい人達の窓口ともなっている。新入会員に対する個別フォローを担当している。

広報部会はホームページの企画運営・管理を行い、ホームページチームをつくってリニューアル等も行っている。シニアのための講演会の企画運営を担当し、(株)熊谷印刷協賛で長寿社会振興財団から助成を受けて、平成17年1月から実施した、岩手に因んだ講演会「文化サロン」は今年度で56回に及んだ。



## 沿革

2000/09/08 任意団体として設立  
**高齢者大学のパソコン講習会受講者を対象とした調査結果が発端となり、設立に至る。**

2003/03/14 特定非営利活動法人 認証

## いわてシニアネット設立の趣旨

近年における情報通信技術（IT）の進展は著しく、日常生活を支える時代となってきたことから、中高年者もITを学び、その成果を活用して、次により、住みやすい地域づくりに寄与することを目的とする。

1. インターネットや電子メールでの交流や情報発信をする。
2. 新たな社会参加や社会貢献の場を醸成する。
3. 一人ひとりがより豊かな生活を送ることができるよう、相互に支えあうつながりをつくる。

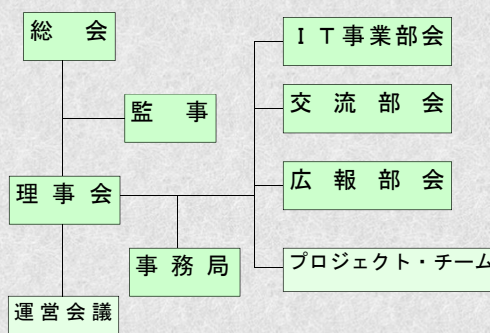
## 会員の状況

平成22年9月10日現在

年代	男 人数	女 人数	合 計 人数
50～59歳	5	8	13
60～69歳	23	21	44
70～79歳	52	23	75
80歳以上	9	2	11
年齢不詳	0	3	3
合 計	89	57	146

ほかに団体会員：1

## 【ISN組織図】



## IT事業部会

- 1 講師・サポーター養成
- 2 一般対象IT講習会の企画・運営
- 3 会員対象講習会
- 4 講師・サポーターの派遣
- 5 訪問サポートサービスの提供
- 6 講習会テキストの作成等
- 7 IT習得にかかわる事業の開発

## 一般対象各種講座

ワード/エクセル、インターネット、メール、デジカメ関連、  
 はがき作成(年賀状等)、ブログ作成、他、パソコン相談会



プロジェクターの大きな画面で説明します。

サポーターが数人ついてみなさんのサポート役をしています。

## 交 流 部 会

- 1 IT サロン運営
- 2 会員グループ活動の促進と支援
- 3 社会貢献活動の開発と実施企画
- 4 他のシニアネットなどとの交流の企画運営

NPO法人 いわてシニアネット

7

## I T サ ロ ン

- 開設日： 毎週火・木曜日の午後1:00から4:00まで  
都会員が当番制で必ず在席  
当番、あるいは参加者同士でPC関連のスキルアップ
- 場 所： ISN事務所(コープ介護・福祉センター“あい”)の一隅
- 参加料： 運営費の一部負担として、1回100円



NPO法人 いわてシニアネット

8

## 広 報 部 会

- 1 ホームページの企画運営・管理
- 2 機関誌の発行
- 3 講演会(文化サロン)の企画運営
- 4 ISNの広報と取材対応

NPO法人 いわてシニアネット

9

## 事 務 局

- 1 総会、理事会等全体会議に関する事項
- 2 各部会業務の調整に関する事項
- 3 会員の入退会に関する事項(相談を含む)
- 4 所有パソコンの整備・保守に関する事項
- 5 経理及び総務・庶務・謝金に関する事項
- 6 事務所管理に関する事項
- 7 対外窓口

NPO法人 いわてシニアネット

10

## いわてシニアネットの特徴

- ☆ 会員数が多いこと、集団凝集力が弱いこと
- ☆ 会員間のIT技能格差が大きいこと
- ☆ 県内のNPO団体の中では、積極的に活動している団体として評価されていること

NPO法人 いわてシニアネット

11

## 課 題

- 1 活動基盤の整備
  - 1) 収益事業の開発
  - 2) 各種活動に参加する会員の増強
- 2 地域との連携の推進
  - 1) 地域シニアとの交流環境づくり
  - 2) 講習会・相談会・サロン活動の充実
- 3 行政・企業との協働の推進

NPO法人 いわてシニアネット

12

## セッション1 事例報告 「各地におけるシニアネットの活動と今後に向けて」（前半-3）

### ③渡部 俊幸 氏

NPO法人 パソコン・ネット・みやぎ 理事長

平成12年に会社を退職後、職業訓練でパソコンを習う。その時に知り合った仲間と交流を続け、平成13年には「パソコン・ネット・みやぎ」を立ち上げ、皆から押されて、理事長に就任し、現在に至る。

### 特定非営利活動法人 パソコン・ネット・みやぎの活動

○私たちは、平成12年12月24日にパソコンネットみやぎの設立準備会を立ち上げてNPO法人に認証されるように活動を開始しました。最初は、会員を募集し67名会員登録してもらいました。

○平成13年3月28日に特定非営利活動促進法に基づき宮城県に申請をし、認証を受けました。登米・栗原地区では第1号に認証されました。その後4月1日には創立総会を迫町町長・MTCパソコン教室校長をお迎えして場所は、迫町民プールの二階の会議室で会員15名の出席で行ないました。民間のパソコン教室で、(当時厚生労働大臣が指定する教育訓練に教育訓練給付金を支給する)訓練を受けた人、パソコンを使ったボランティアに関心ある人が中心でした。

『身に付けたパソコンの技術を生かせる場を作ろう』と発足したのです。

○平成13年には国の政策で国民の9パーセントパソコン講習を受講させる方針が出され、迫町は693万・登米町では200万の予算を使ってIT事業を展開・豊里町からも講師以来が来て大変忙しくパソコン指導に当たりました。その年は三町の開催時間が重なって会員総出で開催したり、新聞・町の広報に取り上げられたりしました。会議や勉強会と別に日にちを設け相談を受ける活動も活発でした。インターネットに我々のホームページを作成し、活動成果を記載しております。そのお陰で現在のパソコンネットみやぎの財産(活動体制・現在活動しているメンバー・15台のパソコン・その他の機材)を手にする事ができました。



- 平成 14 年には旧徳陽相互銀行跡地に迫町の施設として『にぎわいセンター』が開設されました。地元の市街地活性化に取り組む『佐沼まちづくり』も平成 12 年に設立、平成 14 年には迫町の TMO として認定され、その機関の一部事業を請け負う形でにぎわいセンターに事務所を構えることが出来ました。
- その後は平成 14 年宮城いきいき学園登米・栗原校パソコンクラブ・平成 17 年宮城いきいき学園仙南校パソコンクラブから講師依頼がありその後の活動の主軸となりました。私達の声掛けで平成 15 年さぬまパソコン同好会が結成され 60 歳以上の男女が月二回集まってパソコンを忘れないために勉強会を続けています。
- この活動当初から僕たちの自主的活動として、平成 13 年から無料パソコン相談室・無料パソコン電話相談室を行っております。特に平成 18 年からは無料パソコン相談室は各 9 町を毎月一回、順番に施設を訪問して行っております。町内会・商工会・各種団体等々の初級コースパソコン講座の講師を引き受けています。我々 NPO は、よその団体からの資金提供を受けず、活動資金を自分たちの会費と有料事業で捻出しているのです。

市の市民活動支援課には登米市広報に毎月掲載を協力頂いております。
- 現在登米市では、子どもさんやお孫さんがパソコンを買い替えした後、処分料がかかるので、実家のおじいさんおばあさんに払い下げするという現象が多く見られます。もう一つは、家族のものに繰り返し繰り返し操作方法を尋ねると 4・5 回目にはうるさいと怒鳴られるのでなかなか覚えられない。こんな家庭の事情があり、少しではありますがまだまだパソコンを習いたいという需要は眠っています。我々のような小規模な NPO 活動の存在価値があるのです。
- 皆さんの地域からも是非パソコン・ネット・みやぎへパソコン講習会の依頼を御願い致します。簡単なソフトの開発、フォームづくり、日常パソコン操作の省力化の提案その他の仕事を下さい。力をお貸しします。お互いの学習会を通して個人の力量がアップしているので、「出前コース」と称して有料ではありますが、個人対応の出張講習を行っております、更なるパソコン操作技術の普及を目指してがんばらせて下さい。

## 平成13年4月1日設立総会



会員総数  
平成13年67名  
平成19年16名

## 平成14年迫講習会 於て:迫中央公民館



平成13年～14年2年連続開催

## 宮城いきいき学園(仙南校)



平成17年以來毎年開催

## 平成19年大通り商店街講習会

平成19年5月8日



## 平成20年大通り商店街講習会



平成20年3月6日

無料パソコン相談室  
(各9町)で開催

パソコン出前教室

登米市全部・全県で日帰りできる範囲で可能です

**パソコン出前教室**

パソコン入門  
インターネット  
E-mail  
Word の操作  
Excel の操作  
その他いろいろ



## 5. セッション2：事例報告（後半）

### セッション2 事例報告 「各地におけるシニアネットの活動と今後に向けて」（後半-1）

#### ④千田 節子 氏

NPO法人 あきたパートナーシップ 事業推進課課長代理

秋田県秋田市生まれ。長く主婦でしたが、当法人が平成18年4月に秋田県ゆとり生活創造センター「遊学舎」の指定管理者となった際、職員となり、地域リーダー研修会などの自主講座を担当して5年になります。個人としては福祉のボランティア活動をしています。「知恵あるものは知恵を出し、知恵なきものは汗をかけ」を信条に「自分にできることは何か」を常に考えるように心がけながら、汗をかいています。

#### 団体の沿革、活動状況

社会・経済システムが大きく揺らいでいる現在、よりよい社会に変革していくためには、市民の声が生かされる社会システムを構築する必要があります。そのために、私たちは市民活動を促進し、市民と行政とが協働してまちづくりをすすめる市民参画社会を構築することを目的に活動しています。患者と医療関係者が率直な意見交換を通して相互理解を深める場となっている「患者塾」や、ボランティア・NPO活動を支援する各種講座などを通して市民活動の促進を図っております。



平成14年3月に任意団体としてスタートし、5月に法人格取得。「こんな病院があつたらいいな」事業として、医療者と患者の良い関係づくりを考える取り組み、秋田県の受託事業として、情報誌「ボランティア・NPO活動ニュース」を編集。平成15年にNPO活動支援のための組織「NPO活動支援室」をつくり、秋田県受託事業として、情報誌編集、相談業務を行いました。平成16年医療について話し合おう連続講座、平成17年に医療者の講義の後、参加者によるフリーディスカッションを行うなど、日ごろ感じている医療に関する疑問不信感や疑問を出し合い、さらに「患者さんとお医者さんの良い関係づくり」が進むような場を年5回設けました。



また平成18年からは、秋田県ゆとり創造センター「遊学舎」の指定管理を受けております。「遊学舎」は、ボランティア・NPO活動、余暇・文化活動など自由な時間を有効活用する様々な活動の拠点として設立されたものです。それをうけて、当法人では、秋田県中央地区のNPO活動支援センターとして、相談業務、情報提供事業、NPO支援を実施すると共に、定期的に利用者満足度調査、運営評価委員会を開催し、より良い施設運営に努めております。特に地域課題解決をめざすNPOを資金的に支援するファンド「あきたスグッチファンド」の創設・運営については、当法人が中心的な役割を担い、全県のNPOのとりまとめとして当法人の設立目的に掲げている「市民と行政との協働のまちづくりを通じて、市民参画社会の構築に寄与する」という原点に立ち返りながら活動をすすめております。

## NPO法人あきたパートナーシップ

- 平成14年5月に法人立上げ
- 「市民」と「行政」とが協働して  
まちづくりをすすめる「市民参画社会」  
をめざして活動

## 法人の事業

### ★受託事業

- ◆ 秋田県ゆとり生活創造センター「遊学舎」  
指定管理業務
- ◆ NPO活動支援事業
  - ・相談業務
  - ・秋田県市民活動情報ネット管理・運営
  - ・情報誌「かだれ」発行

### ★自主事業

- ◆ ボランティア・NPO支援事業
- ◆ 地域活動団体連携事業
- ◆ 市民活動のためのIT相談・IT活用講座
- ◆ 患者塾(5回実施/年)
- ◆ シニアサロン(全3回)

### シニアサロン(全3回)

～ 人生、これからがおもしろい！ ～

- ◆ 第1回テーマ「会社人から地域人へチェンジ！」
- ◆ 第2回テーマ「豊かなシニアライフのために」
- ◆ 第3回テーマ「地産地消でクッキング！」

□第2回シニアサロンの風景



### これから・・・

- 秋田県市民活動情報ネットの活用
- ・県内の市民活動情報が網羅されている。
  - ・自分達の情報が発信できる。
- IT支援員が配属されている。
- ・初心者向けにPC講座ができる。
  - ・団体向けにはHPの立上げ等の講座ができる。

- ▶ シニア向けのIT講座を企画したい。

## セッション2 事例報告

### 「各地におけるシニアネットの活動と今後に向けて」(後半-2)

#### ⑤ 緑川 斐雄 氏

NPO法人 シニアネット仙台 副理事長 (下記の1～4を説明)

H8年定年退職後H11年入会、PC教室代表、事務局長を経験後H18年から現職。PC教室を担当していたとき会員の要望から視覚障害者が音声を利用した画面読み上げソフトの活用でPCを生活に活用する「視覚障害者PC教室」を5年間開催し、少ないながら現在もサポートを続けている。

#### 及川 寿恵子 氏

シニアネット仙台 理事 ((下記の5を説明します)

H13年入会以来、事務局を担当しH19年理事就任サロン運営(講座の企画運営とサロンスタッフの調整)を殆んど一人で切り盛りしている。また子育て支援、点訳奉仕など本会の外でのボランティア活動も積極的に行なっており、頼りがいのある人。

### シニアネットにおける活動の現状と課題

#### 1 設立の経過

平成7年1月～6月に河北新報社が行なった紙上キャンペーン「夕陽は沈まない」が契機となり関係した人たちが中心となって、活動を継続する期待から平成7年8月12日誕生した。平成11年9月に「非営利活動促進法」の施行に伴い法人化。

#### 2 目的

長い人生経験と豊かな知識・技能を備えたシニア世代を社会の貴重な人材、人的資源としてとらえシニア世代にふさわしい活動の場を創造し、シニア自身の生きがいを、活力に満ちた豊かな高齢社会を拓く。

#### 3 活動内容

3名以上の会員が発起人となって自主管理運営する「12の活動グループ」と事務局が運営する「16の講座」から成り、仙台の中心部サンモール一番町商店街のビルの一室を拠点として基本的に月曜日～土曜日の午前10時～午後4時開催している。

#### 4 会員状況

正会員と賛助会員があるが、殆んどが正会員であり、その数は創設期の不安



定時期を除けば安定的な数を維持しており、年間の移動では常に 50 名程度の入会者、退会者があり本年 3 月末現在 452 名（女性 37%、男性 61%で平均年齢は 70 才）

## 5 運営のポイント

シニア世代の仲間が「やりたいことが出来る」「仲間を増やす」「伝えたい技能」を実現するための場づくり、雰囲気作りには当然集いやすいロケーションと相当の広さが必要であるが、ボラ団体の常として固定的な経費をどのように工面するか、雰囲気をどのように維持するかが大切であり、それらを統括するのが事務局長と事務局員或いは来訪者の受け入れを工夫するのがサロンスタッフである。

- ・事務局職員及びサロンスタッフ（拠点を来訪する人に対するお世話）の出勤は週 1~2 日程度に設定して個人生活の負担軽減を図ることで永続的な勤務を期待する
- ・拠点賃貸料と光熱費で総事業費の半分近くを占めておりこれをカバーするためサロンの利用率を上げる（利用料収入を確保）ことが肝要であり、来訪者が支払う室料と 1 杯 100 円のコーヒー売り上げが重要な収入源となっている。
- ・本会のように幅広い活動を独立して実施する団体では会員が情報の共有をすることが重要であり月例でグループ代表が一堂に会する「連絡会議」が欠かせない。

また固定的な講座のみではマンネリ化も避けられず、気分を変えるためのスポット的イベントを定期的に可能とするため、こちらも「スタッフ会議」を月例で開催している。実際の活動結果や実施計画を隔月ながら会報として全会員に届けるほか主要なボラ団体に配布し、HP へのデータUP も月に 1 回以上実施している。

定期刊行物の編集から印刷、HP 管理など特別な知識と感性も求められるがいずれも会員のボランティア作業に頼ることが可能となっている。

- ・これまでも述べたが、高額な賃借料と高額な光熱費を伴う拠点を維持するための財政的負担を確保することが大変重要である。会員の年会費は 3,600 円で発足当時から変わっておらず総事業費の 19%程度であり、円滑な運営を維持するためには活動グループから拠出される安定的な寄付金（25%）に頼るほか会員その他のスポット的寄付金や協賛金等への依存も大きい助成金申請は本会の目的に合致することが少ないとか新規の事業や活動に対する対応から積極的には取り組めていないのが実情である。

本会のように活動の幅が広い団体では、会員全体の一体感を求める事に相当の努力が求められること、外部からの支援を得やすくするための「認定NPO」移行を摸索しているがハードルは低くない。

一般的な課題でもある年齢構成や活動的人材確保など参加者に関する問題も言われてはいるが、我々も結論は見出せていない。

地域交流、世代間交流も出来るだけ注力しているものの、大きな力にはなり得ず外部からの評価は受けにくい原状であると考えられる。

## 設立の経過

- H7年1～6月 河北新報社キャンペーン  
夕陽は沈まない(豊齢社会の構築)
- H7. 5. 19 国際シンポジウム「築こう豊齢  
社会・杜の都の挑戦」(1200人の参加)
- H7. 8. 12 シニアのための市民ネットワーク  
仙台が発足
- H11. 9. 28 宮城県20番目のNPO法人認証

1

## 目的

長い人生経験と豊かな知識・技能を備えた  
シニア世代を社会の貴重な人材、人的資源  
としてとらえシニア世代にふさわしい活動のを  
創造し、シニア自身の生きがいを、活力に満ち  
た豊かな高齢社会を拓く

### キャッチフレーズ

行くところがある  
合う人がいる  
することがある

2

## 活動内容

- 活動グループ 12  
下記の拠点や外部の特定場所で開催
- 講座 16  
下記の拠点で開催
- サロンわい・わい一番町  
月曜日～土曜日(祝日を除く)  
午前10時から午後4時までオープン

3

No	グループ名	会員数
1	グループ・よっこより	17
2	PCサロン	35
3	豊齢社会研究会	8
4	飛行船俳句会	5
5	杜の都の麻雀会議	89
6	あしかび短歌会	9
7	パソコン教室	10
8	注文の多い料理店	24
9	うたごえサロン	51
10	デジタル・ワン	9
11	定山運河を桜の世界名所にする会	6
12	生活支援SSG	9

4

## 会員の状況

- 年度別会員数推移  
H22 H21 H20 H19 H18  
456名 453名 407名 425名 392名
- 会員構成比(H22. 3末)

性別	人数	構成比	平均年齢
女性	279	61.2%	68.7歳
男性	169	37.1%	71.1歳
不明	8	1.7%	—
計	456	100%	69.6歳

5

## 運営のポイント

- 会員の新陳代謝
- 新規会員の入会促進
- スタッフの人材確保
- 職員・スタッフの継続性
- 週1度、多くても2日の活動
- 地域交流・世代間交流
- 寄付金収入の考え方

6

## 6. セッション3：パネル討論

### セッション3 パネル討論 「シニア情報生活アドバイザーの活動」

コーディネーター

生部 圭助 氏

NPO法人 自立化支援ネットワーク 理事長

1940年、佐賀県の生まれ。

会社時代は建設業で、研究員・研究企画管理・マルチメディアと情報エンジニアリングの仕事にかかわりました。

2001年に会社を退職。NPO自立化支援ネットワークに入会し、アドバイザーの養成とフォローの仕事を中心に、同NPOの初期段階からかかわっています。理事を経て、2006年に理事長に就任し、今日に至っています。

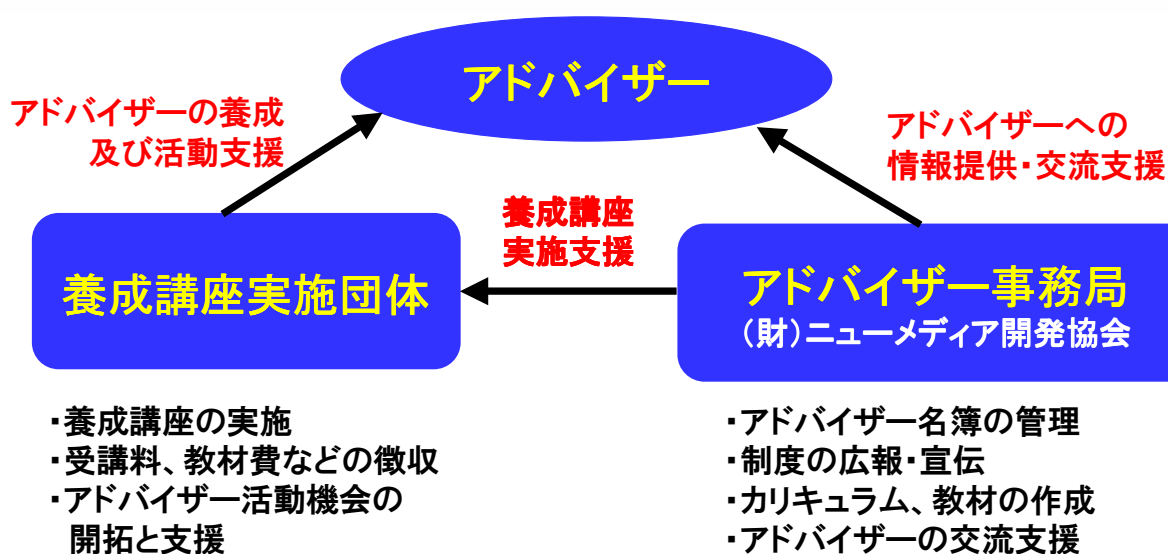


# シニア情報生活アドバイザー 制度の目的

シニア情報生活アドバイザーを養成し  
シニアがICTを活用して  
より楽しく活動的な生活を送り  
生きがいの創出と社会参加を促進する

1

## 制度の仕組み



2

## 養成講座の内容

### ■養成講座カリキュラム

●全体は8講義(1講義3H)からなる

第1講義		イントロダクション
第2講義	技術力	パソコン操作の基礎
第3講義		インターネットの利用
第4講義	支援能力	講義案を作成しよう
第5講義		講師を体験してみよう
第6講義		いろいろな活動の為の基礎知識
第7講義	活用能力	活用方法を考えよう
第8講義		発表

●講座修了者を対象に資格審査(試験)を行う

3

## これまでの実施内容

- ・制度の開始:2001年より養成講座を実施
- ・資格認定取得者累計:約4000名(H21年度は402名)
- ・資格保有者数:3000名(未更新者により減耗)
- ・全国に約117の養成講座実施団体が活動(シニアネット主体)
- ・首都圏から全国へ展開:県や市などの自治体と協働
- ・シニア向けIT講習の講師として活躍
- ・アドバイザーが社会資本(人材資源)として期待される
- ・支援(ニュー協):補助金・専用メルマガ・スキルアップ講座・交流促進支援
- ・地域別アドバイザー活動研究会の実施

**2010年に開催:全国3箇所での開催予定(札幌・仙台・沖縄)**

4



# パネル討論

## ■パネル討論のタイムスケジュール

時間	テーマ	担当	備考
14:50-14:55	【1】パネラーの紹介	司会者	
14:55-15:05	【2】アドバイザーの制度、現状の説明	司会者	司会者あいさつを兼ねる
15:05-15:35 (7分/人)	【3】各団体の沿革、団体の活動状況	パネラー	団体の活動状況(別紙を作成)
	【4】各団体の活動状況(アドバイザー)	パネラー	自慢・悩み・要望など
15:35-16:15 (40分)	【5】討議のポイントの整理	司会者	事前に決めておきたい
	【6】解決策や要望に対する討議	全員	
16:15-16:20	【7】司会者のまとめ	司会者	会場よりの質問時間: ?

5

# 養成団体とアドバイザー数

	養成団体数	アドバイザー数 (名)	アドバイザー数 (全国比)
全国計	122	3012	
東北計	8	124	4.1 %
青森	2	5	
秋田	1	1	
岩手	0	0	
山形	1	20	
宮城	2	72	
福島	226	26	

6

## パネラー（１）

村口 理 氏

NPO法人 IT支援ネットあおもり 理事長

パソコン好きのアラサーが、様々な人の縁からパソコンの楽しさを伝える活動に携わり、周りのスタッフは皆人生の先輩ばかりの中、日々鍛えられながら活動しております。皆さんの参考になるかはわかりませんが、よろしく申し上げます。



## パネラー（２）

平野 慎 氏

株式会社キャリア・アシスト 代表取締役

子年生まれの50歳。平成8年に山形県酒田市に有限会社アスコンピュータスクールを開業。当初は情報弱者、特にシニアの方や障害を持つ方への支援をミッションにパソコン教室を展開。常に新しい事にチャレンジしていないと駄目な性分で、現在の課題は「農」につなぐ新しい職業訓練。実現にむけて日々勉強中です。



パネラー（３）

武藤 正勝 氏

NPO法人 イー・エルダー 東北支部長

長く IT 関係の業務に携わってきましたので、定年退職後は IT 技術を生かしたいと考え定年前から NPO 活動に参加してきました。2005 年にシニア情報生活アドバイザーとなり、アドバイザー更新研修の講師を担当しています。

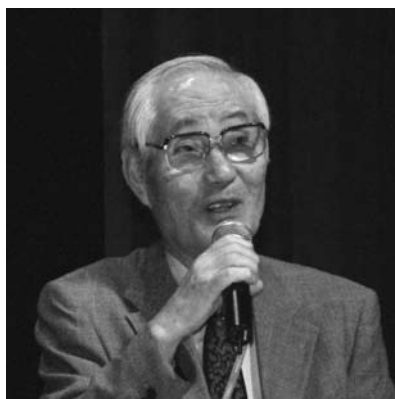


パネラー（４）

井上 文雄 氏

NPO法人 仙台シニアネットクラブ 理事長

1999年仙台シニアネットクラブ入会2001年に「シニア情報生活アドバイザー」に認定された、2001年クラブ運営委員になり、2005年代表に就任、2010年クラブがNPO法人に認証され同時に理事長に就任、現在に至る。



## パネル討論内容

### ◎ 全体説明

冒頭、コーディネーター（生部圭助氏）により、パネル討論の位置づけについて、アドバイザ資格を取得して活躍している方、取得を目指している方、養成団体、あるいは養成をしようとしている団体を対象とする旨の説明があった。さらに、パネラー間でシニア情報生活アドバイザーについての認識を共有するために、パワーポイントを用いた以下の説明があった。

- ・シニア情報生活アドバイザー制度の目的
- ・シニア情報生活アドバイザー制度の仕組み
- ・シニア情報生活アドバイザー養成講座の内容
- ・養成講座のこれまでの実施内容
- ・パネル討論のタイムスケジュール
- ・養成団体とアドバイザー数の現状

### ◎ 沿革、活動状況

討論に先立ち、パネラー個別の所属団体の沿革、活動状況説明があった。

#### IT支援ネットあおもり

特定非営利活動法人 IT 支援ネットあおもりは、主に高齢者や障害者・子どもたちへ情報技術の習得機会を提供し市民の情報力を高めると共に、市民の社会参加や仲間作りといった地域の活性化を目指して、平成 17 年 12 月に団体としてスタートしました。

元々は特定非営利活動法人青森 NPO サポートセンターによる「IT バリアフリーサポート事業（平成 14～16 年・青森県受託事業）」のスタッフが中心となり、事業の終了後も続けてパソコンを学びたい受講生の意欲を受け、任意団体として始めました。

現在の主な事業は、青森市内にて定期的にパソコンについて楽しく学ぶ「パソコンサロン講座（平成 21 年は述べ 300 人以上受講）」と、青森中央市民センター及び各地域市民センターとの共催で初心者向けに行う「チャレンジ！パソコン講座（平成 21 年度は延べ 1700 人以上受講）」になります。

現在会員は27名、内13名が講座のスタッフとして活動しています。

#### アスプコンピュータスクール

平成 8 年に山形県酒田市に有限会社アスプコンピュータスクールを開業して、今年で 14 年になります。当初は株式会社ホームコンピューティングネットワーク（人材派遣の「パソナ」と「NTT 東日本」の合併会社）の展開する「パソナコン塾」の FC として地域密着型のパソコン教室の経営をメインに開始いたしました。開業時はおりしも Windows95、98 とパソコンが一気に普及を加速するもっとも華やかな時代で、一般市民からシニア、障害者を対象に幅広く講習を行

ってまいりました。現在は社名も株式会社キャリア・アシストと変更し、おもに求職者のための民間の職業訓練校として山形県内においては酒田市、鶴岡市、山形市の3カ所に教室を持ち活動しております。シニア情報生活アドバイザー関連としましては、H14年にアドバイザー養成校として登録。以後概ね1年に1度のペースで開講してまいりました。養成してきた人数は50名を超えていると思いますが、現在では21名ほどの登録となっております。

活動は、酒田市、鶴岡市を基点にし、当パソコン教室の卒業生を中心に結成された、「酒田シニアパソコンクラブ」のメンバーを中心にアドバイザーを養成し、活動を行ってきたわけですが、当スクールの役割としては、養成の他には、活躍の場の提供として、行政への事業の企画、受託、そしてメンバーに対しての新しい知識の習得、勉強の場の提供を行ってまいりました。もっとも活発であったときは、H13年の国を挙げての「IT普及国民運動」の時であったと記憶しております。

以下開催してきた講座です。

- ・山形県IT講習 「JIBABA（じじばば）の初めてのパソコン&インターネット」、
- ・山形県IT講習「身障者のための初めてのパソコン&インターネット」
- ・酒田市IT講習（視力障害者対象、一般市民対象）
- ・高齢障害者雇用支援機構「障害者雇用ミニフォーラム」での講演
- ・山形県身体障害者福祉協会より受託「パソコンボランティア養成講座」
- ・酒田市生涯学習課より受託「小学生対象の夏休みパソコン学習会」
- ・酒田市自治会、会長さん対象PC初級教室
- ・酒田市ボランティア連絡協議会役職者へのPC講習会 ……その他多数。

#### <現在の状況>

このような数々の講習も、主に行政からの委託を中心に行ってきたため、流れが変わり予算が大幅にカットされ、受託できる事業がなくなるのと同時に活動も自然に縮小。それと同時に当スクールの事業自体が一般社会人、シニア、障害者対象から、求職者向けの職業訓練を中心に行うようになったことで、「酒田シニアパソコンクラブ」及びシニアアドバイザーへの支援が難しくなり現在に至る。

#### イー・エルダー

イー・エルダーは、「知的社会資産（IT知識・技術・経験・知恵・人脈・体力）を持つ中・高齢者が、非営利団体の活性化や高齢者・障害者などの社会参加支援を目的に、ITを中心とした様々な非営利事業活動を遂行する」を活動理念として、2000年12月にNPOとして認証されました。

イー・エルダーの本部は東京渋谷にあり、「ITを核にしたコンサルティング、情報化支援」、「中古パソコン再生・寄贈プログラムの展開」、「研修事業」など様々な事業をおこなっています。宮城県に東北支部があります。

東北支部の主な活動は、本部の事業を推進すると同時に、地域や会員の特性

を生かした独自の事業も企画しています。

また、東北支部は2002年5月に「シニア情報生活アドバイザー養成講座」実施団体として登録され、2005年まで27名をアドバイザーに養成しました。

### 仙台シニアネットクラブ

#### ① 仙台シニアネットクラブの現状

- ・仙台シニアネットクラブは1998年に設立され、10周年を契機にNPO法人を取得し活動の幅を広げるべく検討され、2010年にNPO法人として認証された。
- ・2010年8月現在の会員数は107名で会員の中のアドバイザー数は56名です。

#### ② 活動事例—【1】初心者向け

の講座の開催と地域貢献の実現

- ・2000年より仙台市から補助を受け高齢者に対するパソコン講座を実施している。年間約1000～1200名が受講している。
- 講座の内容は
  - ・パソコン入門講座
  - ・インターネット講座
  - ・デジカメ&はがき講座
  - ・ワード入門講座
  - ・エクセル入門講座
  - ・パソコンリーダー養成講座

仙台市の補助事業以外では上記の他にブログ講座を含め要請に応じ実施している。

#### ③ 活動事例—【2】IT関連以外の活動

- ・2003年より毎年1回パソコンのセキュリティセミナーを実施している。
- ・2007年SNF21東北の運営支援を行った。

### ◎ 討論

最初に、アドバイザー講座実施団体としての意義、動機、経験、活動実績等についての討論が進められた。提起された主な意見は以下の通り。

- ・アドバイザー認定試験実施団体になるかどうかでまず悩む
- ・次に、受講者がいるか、(講師を含めて)講座運営をどのように進めるか、などが課題となる。
- ・さらに、資格取得後のアドバイザーの活躍の場をどのように提供できるか、についてが、継続的な課題となる。

- ・アドバイザー講座実施団体受諾の動機について
  - はく付けや自分を高め（スキルアップ）、自信をもってもらうことに意味がある。
  - まずはステータスの付与、これにより自信を持つようになり、活躍の場が展開される。それらの実績を示すことにより行政との連携も可能となる。
  - ニューメディア開発協会とニーズが一致したことが最大の動機
- ・養成団体の責務
  - 資格取得者への活躍の場の提供が重要な養成団体の最大の責任
- ・養成団体としての活動の現状
  - 他の団体と連携しながら、所属のアドバイザーの活動を進めている。
  - アドバイザ養成の講師も選定しているため、団体としてはメンバーのスキルのみならず、教授法、企画力も見ることになる。
- ・会場からの質問、意見
  - シニアネット・リアス・大船渡の所属だが、  
現状は、講師のスキルアップが課題で、アドバイザー養成が重要。  
講習はどのように？、どこで？、出張講習は？  
OSの変化への対応はいかに？
  - 井上：仙台シニアネットクラブでは年2回実施。ただ、広報が不十分。  
宮城県高度情報化推進協議会に協力いただいている。  
出張講習は可能だが、経費の問題がある。
  - 川村（ニューメディア開発協会）：  
岩手県は少ない。堪能な講師の出張を考える。  
個別に相談したい。
  - 陸前高田、釜石、大船渡を含めシニアネットリアスグループ協議会として要望していきたい。
  - 生部：東京の場合、水戸から受講し、その後取得者が水戸で講習を行えるようになった例がある。

次に、各団体の悩み、要望について意見交換を進めた。提起された主な意見は以下の通り。

- ・アドバイザー制度の権威付けが必要。行政が関与して、首長が修了証を発行する例もある。励みになり、かつ受講者募集も円滑に進む。
- ・アドバイザー制度自体の知名度を浸透させることの方策について、ニューメディア協会できれい取り組んでほしい。
- ・これまでのフォーラムでも、アドバイザーの知名度を上げることが必ず話題になる。少しずつ改善はみられる。
- ・コンピューターメーカーや他の団体を持つ同様な認定制度と比べた違いを明確化すべき。一般への積極的な周知が不十分。

- ・更新講習では新しい OS や IE、ワードエクセルだけを取り上げるような画一的なものではなく、もう少し広い範囲の選択肢がある仕組みがあってもいい。たとえば ipad など。
- ・今後は、パソコンを飛び越して iphone や ipad などの新技術（デジタルデバイス）を使う人々が出てくる。シニアに使いやすい機器の出現も考えられる。そのような情報機器にアドバイスできなければ、「情報生活」を教えきれぬのか、と感じる。パソコン教室では、iphone 講座も取り上げている。アドバイザーのスキルアップなくして、他人を教えることはできないはずであるから、ニューメディア開発協会には、大手ベンダーと連携して新技術の講座が全国的にできるような仕組みを考えてほしい。同様に、デジカメ講座をカメラメーカーと組んでやることも考えられる。
- ・関東地区では、マイクロソフトのウィンドウズ・ライブの講習会を新宿でやる予定。各地区からも希望を出していただきたい。
- ・アドバイザーではなく、受講者の立場で考えると、古い PC, OS、アプリケーションを使っているため、新しいものとの共通点、違いについて、あるいはデジカメなどの周辺機器のメーカー毎の違いなどについて教える取り組みも重要。
- ・会場からの質問、意見
  - 豊かなシニア生活を考えれば、子や孫から払い下げられた PC を有効に使えるような指導への取り組みも肝要。
  - （アドバイザー講習ではなく、初心者の）受講者の減少の原因は？
    - 井上：講座数が減ったことも一因
      - インターネットは減っている。携帯の普及が一因
      - デジカメ & はがきは年賀状シーズンには多い
      - エクセルの希望者が増加。パソコン自体には興味を持っている。
      - 以上のように、内容によってばらつきがある。
    - 千葉（いわてシニアネット）：
      - 一般家庭に普及したことが一因
      - 他の様々な講習会ができていることも原因
      - 古い PC、OS、アプリケーションへの対応も「いわてシニアネット」の大きな課題。



## 7. 閉会挨拶

NPO法人 仙台シニアネットクラブ  
事務局長 内海 哲郎

NPO 法人仙台シニアネットクラブ 事務局長 内海  
です この日のために 本フォーラムの企画・運  
営担当として 我が 仙台シニアネットクラブが指  
名され 以来 今日まで精一杯 お世話に当たっ  
て来ましたが 皆様 如何だったでしょうか 開  
催に当たり 主催者側から 岡部理事長・担当の  
川村部長の出席を頂き理事長から セミナーの開  
催趣旨等について ご挨拶を頂戴いたしました  
また 激励を頂きました 東北通商産業局・仙台  
市・宮城県の関係者の方々に心から お礼を申し上げます



なお 日頃お世話になっております団体を代表されてのご参加 また激励に  
お出で頂きました日頃ご支援を頂いております関係の皆様 有難う御座いまし  
た 開催に当たり 乏しい情報の中から 東北各地域で アドバイザーを擁し  
て活動されている皆さん まだ アドバイザー養成団体として登録はしていな  
いが シニアを対象として ICT の普及と 情報弱者を無くそうと 頑張っ  
て居られる皆さんに 参加をお願いしました所 本日 朝早くから 青森・秋  
田・盛岡・庄内・会津・福島・三陸の各地から また 県内各地から参加され  
た仲間の皆さん大変ご苦労さまでした 心からのお礼を申し上げます

セミナーを 東北・仙台で 本年中に開催して欲しい今年 8 月でしたか ニ  
ューメディア開発協会・川村 部長さんから申し入れあり 会場の手当てや  
東北各地域対象団体等の組織を どうしたら把握出来るか等 大変な苦労：苦  
心をしました

これも 東北地域の アドバイザーの絶対数が 余りにも少ない 全国では  
3000 名を遙かに超えるアドバイザーが 積極的に活動されている 一方 東北  
6 県中 2 県は 未だゼロの状態 6 県で併せても 124 名を若干超えたダケ  
この現状を踏まえて 今回 現状を打破する機会としてフォーラム開催のご指  
名を頂いたと理解する このように 推察致しております

反面 これからの活動如何によっては 大いなる可能性を秘めた地域である  
ことが 実証出来た これが本日の収穫であろうと確信を致しました このこ  
とを お互いに確認をしようではありませんかか 私はそう実感いたしました  
まず 本日のスケジュールに従って少し 振り返りますと

1. 東北大学大学院 医学系研究科 辻 一郎先生の 基調講演テーマ「社会  
参加と生き甲斐づくり—IT 社会への期待」は 先生の持論である シニアが長  
生きする するために  
何をなすべきか 生きがいつくりと 心と体の一体感 連帯を強めて 社会参

加と地域活動参加を 強化するために IT の果たす役割等 示唆に富んだお話を頂きまして

大変心強く 激励を頂いたと 感謝を申し上げます

休憩を挟んで

2. セッション1・活動事例報告―各地におけるシニアネットの活動と 今後に向けて」

①豊齢研：ITサロン会津 長谷川 さん②いわてシニアネット 千葉 さん

③ パソコンネットみやぎ 渡部 さん

(また 休憩をはさんで)

④あきたパートナーシップ 千田 さん

⑤シニアネット仙台 緑川 さん・ 及川さん

それぞれから 活動の現況と 日頃の悩みとか 活動を通じての喜びと教訓 仲間の現在の姿等を ご披露頂きました まだ アドバイザー育成の団体として 登録されていない組織も有りますが 1日も早く育成に着手され なお活動が強化され 仲間作りが促進される 中核を育てて行かれるように 祈念致します

3. パネルディスカッション「シニア情報生活アドバイザーの活動」

4人の発言者と コーディネーターとして わざわざ東京から NPO 自立支援ネットワーク代表の 生部 圭助さんを 招いて 1時間20分程度しか 時間がありませんでしたが フォーラムの中心課題を取り上げて 熱心に討論を重ねて頂き 参加された皆さん 共々 今後の活動を持続する上で 大いに得る所があったと 評価致します

終わりに―

日本のシニア人口は 3000万人を遙かに超過し 80歳以上が800万人以上 高齢化率は 30%台 東北はトップに近い位置を占めている 要するに ICT 社会を 共に担う見込客は 選択に困る位 多数居られる 但しただ 待っていても一緒に参加しない 呼び掛けをじっと待つ こんな シニアが まだまだ多い まして 東北は 未開拓地として 顧客は無尽蔵と言っても 過言ではありません

本日の機会を 再出発の日と捉え お互いに激励し合い 情報と活動の交換交流を更に強めて 次の機会があれば 大いに元気な 大地にしっかりと根付いた シニアネットの姿を お互いに披露できるであろうことを 信じている所です

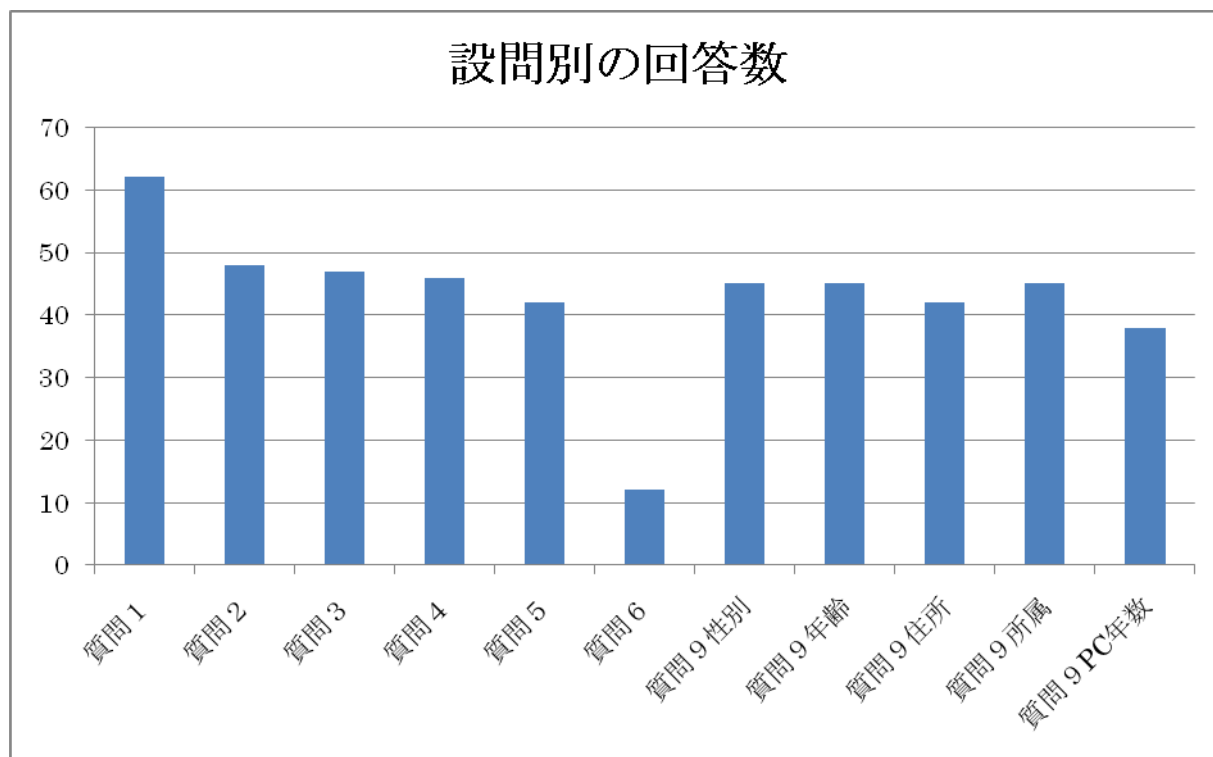
活動を支える シニア情報生活アドバイザーも 各地で頑張っている この姿を

一つの目標にして 東北のアドバイザーの活動が シニアの期待の星として存在している やれば必ず出来ます お互いに元気で 頑張ってください 皆さんと 又の再会を 期待しまして 締めめの挨拶と致します

本日は 有難う御座いました

## (IV) 付属資料（アンケート集結果）

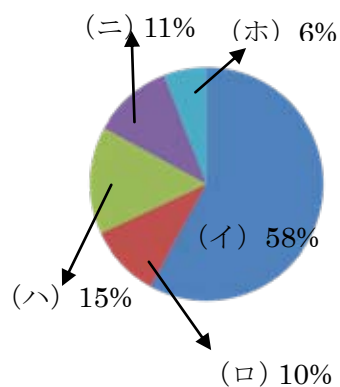
### (1) 設問別の回答数



### (2) 設問別の回答集計

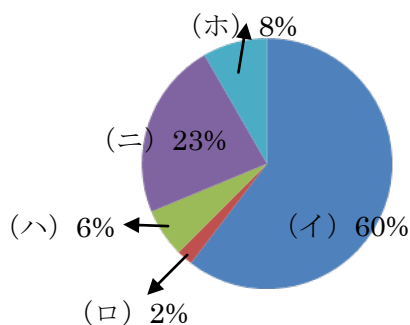
1. 「シニアネットフォーラム 2010 in 東北」のどのプログラムに参加されましたか？参加されたもの全てに○を付けてください

イ. 全プログラム	58%
ロ. 基調講演「社会参加と生きがいづくり・IT 社会への期待」	10%
ハ. セッション1 事例報告「各地におけるシニアネットの活動今後に向けて」 前半	15%
ニ. セッション2 事例報告「各地におけるシニアネットの活動今後に向けて」 後半	11%
ホ. セッション3 パネル討論「シニア情報生活アドバイザーの活動」	6%



2. 本フォーラムの参加された動機について、あてはまるものに一つだけ○を付けてください。

- |                           |     |
|---------------------------|-----|
| イ. 自身のシニアネットでの活動に役立てるため   | 60% |
| ロ. シニアネットを自分で設立する際に役立てるため | 2%  |
| ハ. シニアネットの参加するにあたって役立てるため | 6%  |
| ニ. とりあえずシニアネットについて詳しく知るため | 23% |
| ホ. その他（以下に内容をご記入ください）     | 8%  |

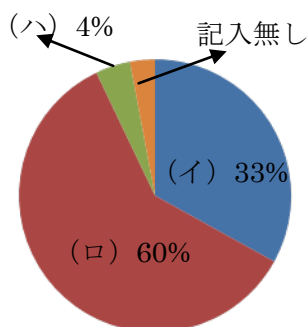


(意見)

- ・アドバイザー養成講座団体として体制を立て直す参考になればと
- ・シニアを支援するため
- ・各地域の活動状況を知るため
- ・大学での研究の参考にするため

3. 本フォーラムに参加されて、シニアネットという組織とその活動について理解が深まりましたか？

- |                                 |     |
|---------------------------------|-----|
| イ. シニアネットについての理解が非常に深まった        | 33% |
| ロ. シニアネットについての理解が深まった           | 60% |
| ハ. 余り理解が深まらなかった（どのような点か、ご記入下さい） | 4%  |
| ニ. その他                          | 0%  |



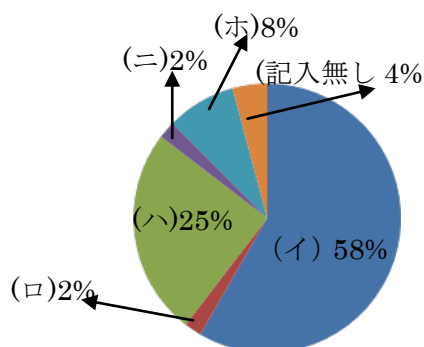
(理由および意見)

- ・自分の団体がシニアネットというもので無いのでシニアネットアドバイザー団体？
- ・生きがいや長寿につながり、活動を生み出す事を楽しむことこそ豊かな生活が送れる
- ・シニアネットがどんなものかを説明することが無かった
- ・それぞれの団体の事例について理解が深まったと言える

- ・「好きこそ物の上手なれ」と熱い思いと、ボランティア精神で支えられている事が良く分った

4. 本フォーラムに参加されて、ご自身がシニアネットにどのように関わって  
いきたいと思いますか？

- イ. すでにシニアネットで活動しているが、さらに活発な活動したい 58%
- ロ. シニアネットを自ら設立し、始めてみたい 2%
- ハ. 身近なシニアネットに参加してみたい 25%
- ニ. 別だん関わっていかうとは思わない（下記に理由を記入お願いします） 2%
- ホ. 参加しようかどうか、良くわからない（下記の理由を記入お願いします） 8%



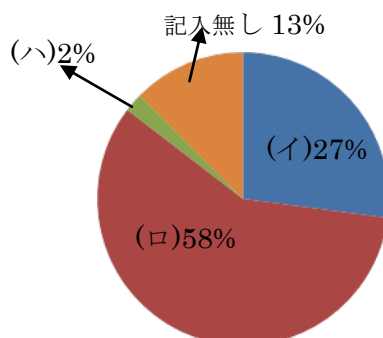
(理由および意見)

- ・シニアネットの活動に民間企業として支援できるか検討したい
- ・第二の人生を目的を持って生きておられる方が身近にいて力づけられる
- ・体力、健康

5. 本フォーラムの全体のご感想について、以下のあてはまるものに一つだけ  
○を付けてください

また、全体的にご意見等がありましたらご記入をお願いします

- イ. 今後の活動や設立・参加のために大変役に立った 27%
- ロ. 今後の活動や設立・参加のために役に立った 58%
- ハ. 余り参考にならなかった（下記の欄にその理由の記入をお願いします） 2%



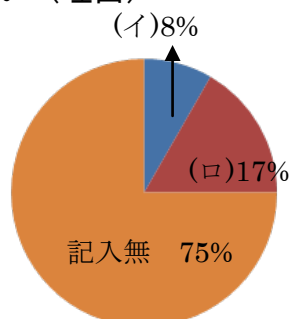
(理由および意見)

- ・ 本日の発表のプロシクターの所をホームページに載せて欲しい
- ・ 共通の悩みを知り自分だけで無い事を知り安心した
- ・ シニア情報生活アドバイザーについて、少し知識が出たと思うが、もう少し詳しく知りたかった
- ・ 各地での活躍今後が楽しみ
- ・ 想定内の事例
- ・ シニアネットの活動と抱えている課題が理解出来ました、今後は数年先、退職しますので、引き続きシニアネットの活動をウォッチして行きたいと思います
- ・ シニア情報生活アドバイザーは大変ですね。新しいOS、ソフト、デバイスを覚え理解、説明、でも、いかに使い易いかを目指していると思います
- ・ リタイア後参加したい
- ・ どなたかが意見されましたが、古いパソコンやOS問題がありますが、自分としても孫や息子からのお下がりで良いと思っていますのでアドバイザーの活動を段階を分けて頂ければ良いと考えました
- ・ 辻先生の基調講演がとても良かった、各セッションもそれぞれの活動模様が分り今後の参考となった
- ・ ともすれば独りよがりの活動になりがちなか中、広く世の中の動きを知り活動のバネを得た気分である
- ・ 各団体の特色が解り良い刺激になった
  - ・ 地域ネットが多く全国レベルのネットワーク作りをしてみているのでしょうか？
- ・ 行政との絡みが多い中地域の意気込みや独自性を示すのも必要ではないでしょうか
- ・ 若い人達と、もう少しコラボレーション出来るイベント企画を提案してみても如何でしょうか？
- ・ 今後、アドバイザーの役割を果たしたい
- ・ シニア情報生活アドバイザーについて漠然としていたが大体理解出来た

6. 行政や企業関係者の方をお願いします

今後、処施策、諸事業を展開するにあたり、シニアネットとの協働（コラボレーション）についてどのようにお考えでしょうか

- |                          |     |
|--------------------------|-----|
| イ. 是非、協働していきたい（分野等       | 8%  |
| ロ. 協働出来る所があれば、していきたい（分野等 | 17% |
| ハ. 今のところは考えていない（理由）      | 75% |



(理由および意見)

- ・ パソコン関係サポート
- ・ 健康福祉面で ICT の利活用で、どうしたら受け入れられるか一緒に考えて頂きたい
- ・ IT、パソコン関連
- ・ 生活学習・社会教育

7. 今後の、シニアネットの活性化や普及拡大を図るためには、どのような事が必要であるとお考えですか？ご意見をお書き下さい

(意見)

- ・ 広報活動
- ・ 企業との連携（郵貯・NTT・電力・パソコンメーカー・デジカメメーカー・etc)
- ・ 相談日に XP の操作も必要では？・・・講習で XP 保有者が半数位いる！携帯、TEL への講習拡大は無理ですか？
- ・ 行政との協働、知名度の向上の活動
- ・ 今日の各シニアネットの発表を聞いたら自分達のシニアネット大船渡の目的など活動の在り方をしっかり把握して会員の皆さんに下ろし認識させて行きます
- ・ 早急に組織的な活動を図りたい
- ・ 指導者の養成について検討すべき
- ・ 今日のようなフォーラムを続けて、横の連携を深めることではないでしょうか
- ・ 更に多くの方々のパソコンを学びたい人への講座を増す、市民センター、公民館等とタイアップする、又は企業の協賛を得る
- ・ 幅広い広報活動（市政だより等を更に活用）
- ・ 他団体、他世代の方との交流
- ・ 行政、企業の支援を必要と思うが、地域の中に入って行く取り組み（地味

な活動ですが) も一方では必要と思います

- ・ シニア層に使い易い機器やソフトの開発
- ・ ハードルの低いユーザーインターブース
- ・ 携帯電話の様にシニアパソコンの開発 (ipad の様な)
- ・ 今後も全国レベルで地域毎に活動してほしい
- ・ 福島支部を設立してほしい
- ・ 一般市民向けに広報の周知を徹底
- ・ 行政、地域団体との密接な関係の構築
- ・ 行政との一層の連携・会員自身がより楽しめる運営にする
- ・ 講習会の費用の問題、まだまだ偏見あり (変わり者、孤独になる、マニアック、ノイローゼになる、犯罪に結びつく etc) 結構多い雑音の打破
- ・ どうしても NPO 組織としての活動が多く、組織そのものの制約が有る中活動面での苦労もあるが、その中から新たな資金調達方法を模索する必要がある。寄付等は頼ることなく草の根活動を地道に! 地域でなく

8. 今後の「シニアネットフォーラム」で取り上げるべき講演、パネル討論、事例報告のテーマや、是非聞きたいとお考えの講師の氏名、講演名等を理由も含めてお考えをお書き下さい

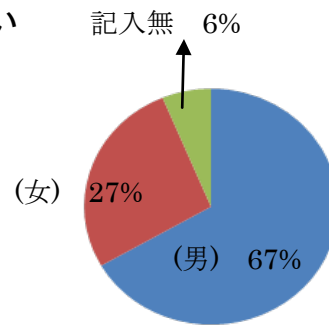
- ・ 各チームの発表の内容等、プロジェクターでの画面の中身をホームページで是非紹介して下さい。
- ・ メモを取りたいが会場が暗くて記録が出来ませんでした・・・宜しくお願いします。
- ・ 特別見当たらない。
- ・ 運営のノウハウをもっと知りたい。
- ・ 会社でパソコンを利用していたが退職し地域に戻ってくるので、自宅にあるパソコンの稼働率を上げる為のヒント (シニアネットの活動に参加など) を与える活動を。
- ・ シニアに優しいハード&ソフト開発、設計について
- ・ 地域シニアネットの組織の仕方など
- ・ 成功事例、具体的な組織の作り方
- ・ 東京や関西等の大都会の NetClub の活動状況を直接聞きたいと思います。



9. あなたご自身のことについて、以下ご記入下さい

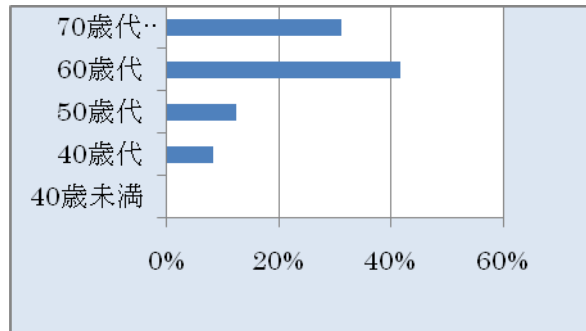
① 性別：

男	67%
女	27%
記入無	6%



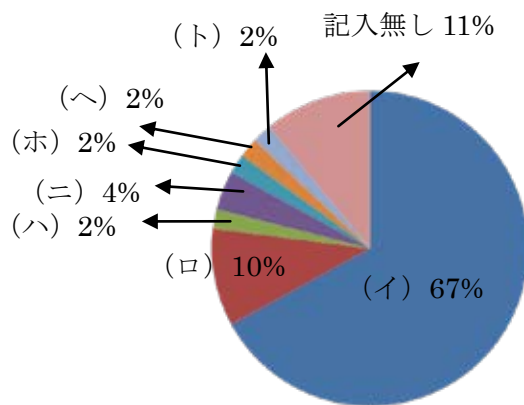
② 年齢：

40歳未満	0%
40代	8%
50代	13%
60代	42%
70歳以上	31%
記入無	6%



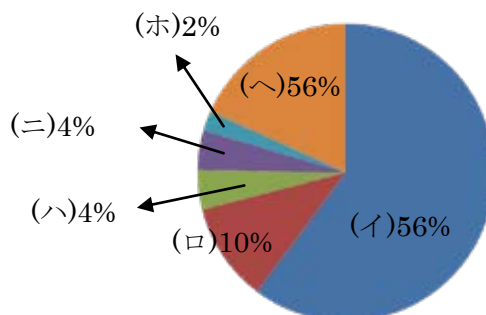
③ 住所（市区町村まで）：

イ. 宮城県	67%
ロ. 福島県	10%
ハ. 青森県	2%
ニ. 岩手県	4%
ホ. 秋田県	2%
ヘ. 山形県	2%
ト. その他	2%
チ. 記入無し	11%



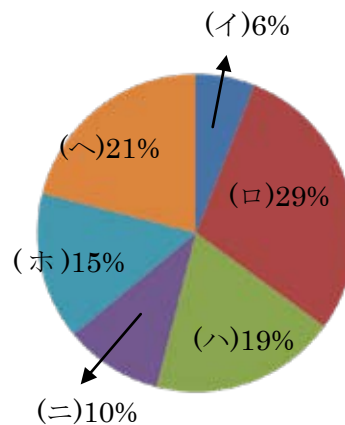
④ 所属

イ. シニアネット（NPO 法人を含む）	56%
ロ. NPO 法人等各種団体、グループ（シニアネット系以外）	10%
ハ. 行政機関（担当分野：	4%
ニ. 民間企業（担当分野：	4%
ホ. 自営（職種：	2%
ヘ. 何処にも関わっていない（個人）	17%
ト. その他	0%



⑤パソコン経験年数

イ. 1～5年	6%
ロ. 6～10年	29%
ハ. 11～15年	19%
ニ. 16～20年	10%
ホ. 21年以上	15%
ヘ. 記入無	21%



⑥生活の中でパソコンをどのように活用していますか？また活用したいですか？

- ・メール、インターネット、文書作成、写真、はがき、応用利用
- ・家計簿作成、血圧レポート、その他、知識の導入
- ・エクセルで家計管理、年賀はがきなど作成、画像処理、インターネット検索、オンラインショッピング、メール、メッセージ
- ・会社を退職して2年半経ちましたが、在職中は連日のように使っていたword、excelは現在使っていません。ネットで全国紙の新聞を見る程度なので、パソコンをもう一度活用したいと思いシニアネットクラブがどんな事をやっているのか知るために来ました。
- ・歴史関係の団体に関わっている、その為にワード、エクセル（名簿、文書）
- ・会員（シニアネット）とのメール交換
- ・家族、親戚、孫達とのメール交換（外国含む）
- ・生活の中の情報収集の映像（動画）編集（趣味）、現役時代の仕事からの延長にしたいが無いが必要に迫られれば行動する位の気持ち、古物商の許可を受けているので、パソコン利用で小遣いが稼げれば良いなと思っている
- ・日常的に生活の一部になっている
- ・当初は財務ソフト、エクセル等研究活用が中心だったが、加齢と共に活用の場が無くなる。
- ・（老人故、信用度が低下のせいか）現在はフリーソフトに興味を持ち一人で研究中
- ・いい歳して、そんなことはやめよ！との声が多いが、まだまだパソコンなどを操作していると精神的におかしくなると思われている。
- ・日記、写真、年賀状、一般ハガキ、てがみ、町内会データ、インターネット、メール、スカイプ etc
- ・インターネット、メール、ワード、エクセル、全て使っています。
- ・メール、インターネット、ブログ、買い物、データ作り（血圧、etc）
- ・ニュース等情報の収集及びブログ等情報発信
- ・仕事、生活そのもの、インターネット構築

- ・ ホームページを貼る、メールやりとり
- ・ IT全般、ネット検索、ツイッター、ブログ、メールなど
- ・ 年賀状作成、写真の整理、インターネットの利用
- ・ メール、Web閲覧、検索、画像・動画管理、健康管理、仕事
- ・ インターネット検索、健康管理データの収集と管理、DVD管理（データベース）
- ・ 仕事に活用（会社で処理できない部分）、趣味のための情報収集
- ・ 文書作成、テキスト企画、Web検索、メール、画像処理（写真の出力）
- ・ デジカメ印刷、メール、インターネット、書類作成、点記入力
- ・ 動画鑑賞などの娯楽、メール、officeの利用
- ・ インターネット、メール、パソコン教室資料作成、テキスト作成、囲碁教室テキスト作成
- ・ 町内会案内作成、年賀状作成、その他
- ・ メール、インターネット、検索、文書の作成、他
- ・ 仕事のみ
- ・ 情報収集
- ・ HP、ブログ、メール
- ・ インターネット、メール、デジカメ、老人クラブ等の総会資料作成、その他
- ・ インターネットを楽しむことが今のITの中では大切かと思っている  
ワード、エクセルの基礎から応用を心がけて何でも出来る、パソコン技術を身に付けたい。
- ・ メール、文書作成
- ・ 仕事と趣味
- ・ パソコン教室、町内会会議資料、パソナ作成
- ・ 主に資料づくり、自身の勉強、メール、インターネットで検索
- ・ 仕事、暇つぶし、NPO などなど
- ・ 表計算、ハガキ、文章作成、インターネット、メール、音楽、動画、写真

